

守 口 市

未来を担う子どもたちのために
～小中学校におけるICT環境の整備・充実～

はじめに

守口市では、より魅力的な授業を展開することによって学力の向上を図るため、平成21年度から、学校ICT環境整備事業を活用し、教育環境の充実に向けた取組を行っています。黒板とノートを使った従来型の授業にとどまらず、電子黒板やタブレット型パソコンを駆使することによって、子どもたちにとって、より楽しく、より分かりやすい授業の実現を目指して頑張っています。

導入の状況

平成21年度に、守口市内の全18小学校の5・6年生全クラスと、全9中学校の1年生全クラスに電子黒板を導入しました。また、これに伴い、電子黒板を活用したより魅力的な授業づくりを行えるよう、平成21年度よりICT支援員を配置しています。

ICT支援員は、各小中学校を巡回し校内のICT環境の整備や、ICT機器の活用方法に関する教員への研修を行うとともに、コーディネーターとして、電子黒板を活用した授業で使用するための教育コンテンツの作成などを行っています。

また、平成22年度には総務省の「地域雇用創造ICT絆プロジェクト（教育情報化事業）」において、全国の小学校のモデル校として守口市内の2小学校（三郷小学校、橋波小学校）が採択されました。2校においては、4～6年生の全児童と担任に、1人1台のタブレットパソコンと無線LAN環境を整備し、子どもたちの情報活用能力の育成、反復学習による知識理解の定着、発表活動を通した思考力・表現力の向上を目指して研究を進めています。

これらの取組に対して、現在では全国の教育委員会から問い合わせがあり、授業を見学していただいたり、大阪府や他市町村が開催する研修会で報告の機会を与えていただくなど、守口市におけるICT機器を活用した教育環境の整備・充実に向けた取組について情報発信しているところです。

実際の学校における反応

取組を始めた平成21年度当初、ICT機器を使った授業を展開することに対する現場の教員たちの反応は、必ずしも前向きなものばかりではありませんでした。

表 守口市内小中学校における電子黒板とタブレットパソコンの導入状況

(単位；台)

	電子黒板	タブレットパソコン
小学校	89	409
中学校	52	—
合 計	141	409

※電子黒板は全小中学校、タブレットパソコンは三郷小学校と橋波小学校の2校に導入。

電子黒板



しかし、ICT機器を使った授業は、黒板とノートによる従来の授業を否定するものでもなければ、授業のやり方を根本的に変えてしまうものでもなく、あくまでも今までの授業の延長線上にあるものです。そこで、ICT支援員を有効に活用し、現場の教員がICT機器を有効に活用した授業を進めやすくするとともに、新しい教育コンテンツの作成などにも協力していただきながら、小中学校におけるICT環境の整備・充実を進めてきました。

このような活動により、現在では、ICT機器を用いて、複数の子どもたちの考え方を同時に示したり、答えが導かれるまでのプロセスを順番に表示したりすることが可能となり、以前にも増して、子どもたち自身が、自らの考えを発表することの重要性や、多くの人の発想を知ることの大切さを実感できる授業が可能となり、“考える力”を養う授業づくりに向け一歩一歩着実に前進できているのではないかと考えております。

また、現場の教員のICT機器に関する知識が増えたことにより、今では、教員自らが教育コンテンツの充実や作成に取り組むようになり、また、各学校のホームページも格段にレベルアップを図ることができています。

なお、これまでに作成してきた教育コンテンツの一部は、守口市教育センターのホームページで公開しておりますので、ぜひ一度ご覧ください。

守口市教育センター ホームページ：

<http://www.moriguchi-osk.ed.jp/>

タブレットPC授業風景



今後の取組に向けて

守口市の小中学校におけるICT環境の更なる充実に向けては、教育委員会や教員による独自の創意工夫が、今後より一層大切であると考えています。

平成23年度を初年度とする第五次守口市総合基本計画においては、「教育・子育ての充実」を重点分野の一つと位置づけ、その中ではICT機器を積極的に活用していくことを重要な施策として掲げております。守口市の未来を担う子どもたちの学ぶ意欲、思考力・表現力の向上を目指して、私たちが学び、考えながら、ICT機器を活用したより魅力的な授業を今以上に充実させていきたいと考えています。